

海へつながるプロジェクト —渋谷Re:Light—

実家暮らし隊

MP1

廣田真結、森優香

片岡さくら、岡庭明歩

海洋プラスチック問題の現状



➤ 現状

- 毎年約800万トン以上のプラスチックが海へ流出
- 紫外線や波によりマイクロプラスチック化
- 回収が困難となり生態系や人への影響が懸念されている

海へ流出してからでは回収が難しい



街中から海へ流出する前に対策することが重要

海へ行く前に止める

➤ 海洋プラスチックの約8割は街中や河川由来

➤ 渋谷区に注目

- 人通りが多い
- ポイ捨てが多い

→ 約30%がタバコの吸い殻



啓発効果が大い

➤ タバコに注目

- フィルターがプラスチック製
- マイクロプラスチックになりやすい



吸い殻のポイ捨てを減らす
ことで、海洋プラスチック
削減につながる

6～8月の活動内容

➤ 渋谷区へのアプローチ

- 解決策の提案
- ミーティングに参加→フィードバックをいただく
- ブラッシュアップした解決策の提案

➤ その他の団体へのアプローチ

2つのボランティア団体へ連絡をする

- 海さくら（主に海岸でのゴミ拾いをする団体）
- Green Bird（表参道を拠点に街中のゴミ拾いをする団体）

これまでのミーティングで得た学び

提案	渋谷区に教えていただいたこと	気づき
ライトアップで夜間のゴミ箱の視認性を上げる	渋谷の繁華街は夜でも明るいのにポイ捨てが常態化	ゴミ箱の視認性を上げるだけでは行動は変わらない
目のイラスト、防犯カメラで見られている意識（罪悪感）を与える	禁止、罰金と書かれた路面シートの上に吸い殻を捨てる事例が多数	性善説に依拠した政策は効果が弱い
タバコの吸い殻についての唾液からDNA分析を行う旨の警告を表示し嫌悪感を抱かせる	DNAを犯罪捜査目的で採取できるのは警察のみ	実現可能性が低いものに対して「行う」と警告することは行政の信頼を損ねるリスクが高い
子供たちにポイ捨てをテーマにしたポスターを作ってもらい、市民への啓発を同時に行う	実施済みだが、効果測定は難しい	子供たちを対象にしたものは効果が見えにくい

1.大型ビジョンでゴミ拾いの裏側を可視化

渋谷スクランブル交差点の
大型ビジョンの公共枠で
自分が捨てた吸い殻が誰に拾われているか映す

×良心に訴える

○自分の行動が他者の具体的な負担になることを
理解させる

×見られている

○見せられている



2.市民参加型で路面啓発をアップデート

区立の保育園や学校、高齢者施設など
多様な主体を巻き込み
新しい路面シートを作る

×禁止・罰金

○皮肉・ユーモア・かわいさ

×行政職員

○市民



3.喫煙所で渋谷ブランドを発信

映えるから撮られ、
写りこむ啓発が世界に届き、
渋谷のマナーが自然に浸透するような
喫煙所をデザインする

×日本人向け
○全世界の人向け

×強制的
○自発的



4. ワークショップで吸い殻をアップサイクル

吸い殻を拾い、リサイクルし、
それを新たな資源として活用するところまでを含む
ワークショップを開催する

×理論

○実践

×一時的にゴミを消す

○持続的に価値を生み出す



社会的な効果

- 仮に1日100本の吸い殻がある地点で実施した場合

削減率	1日当たり	1年間換算
10%	10本	約3,650本
20%	20本	約7,300本
30%	30本	約10,950本

※対象地点で1日100本確認されると仮定したシナリオ試算。実際の効果は設置前後の定点調査により検証する

その他の測るべき指標

➤ 行動変容

- 喫煙所を利用した人の割合
- アート公募への応募人数

➤ 周囲を巻き込む効果

- 公募への参加者数
- ワークショップへの参加者数
- 連携した学校・団体・企業の数
- 清掃活動への参加者数

吸い殻が何本減ったか

+

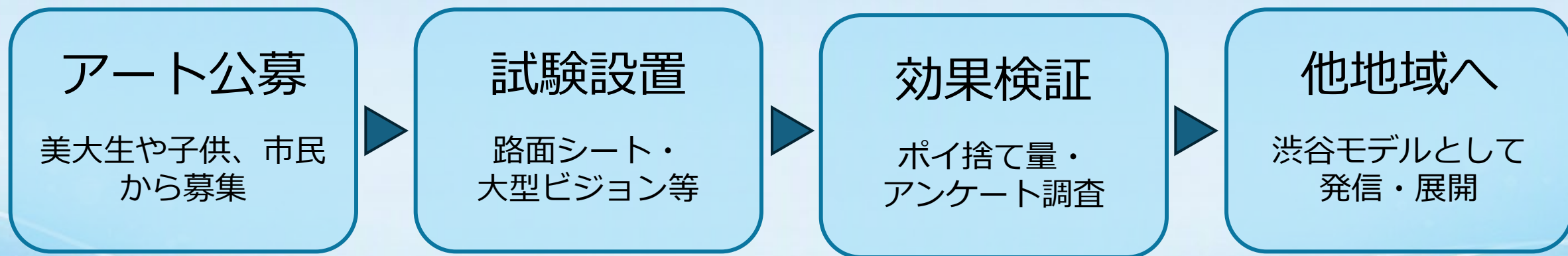
何人の意識や行動が変わったか

+

何人を活動に巻き込めたか

この指標により社会的効果を整理

今後の活動



アートを通じて市民を巻き込み、ポイ捨てしない
文化を渋谷から広げる

もう一つの削減方法

➤ 環境中にでてしまったゴミを早期に回収する

→ 海岸へ**ゴミ拾い箱**の設置

➤ 目標

九州の人が来る海岸にゴミ拾い箱を最低1つ設置する

→ 海岸に来た人が**自主的**にごみを拾ってくれる環境を作る



もう一つの削減方法

➤ 活動内容

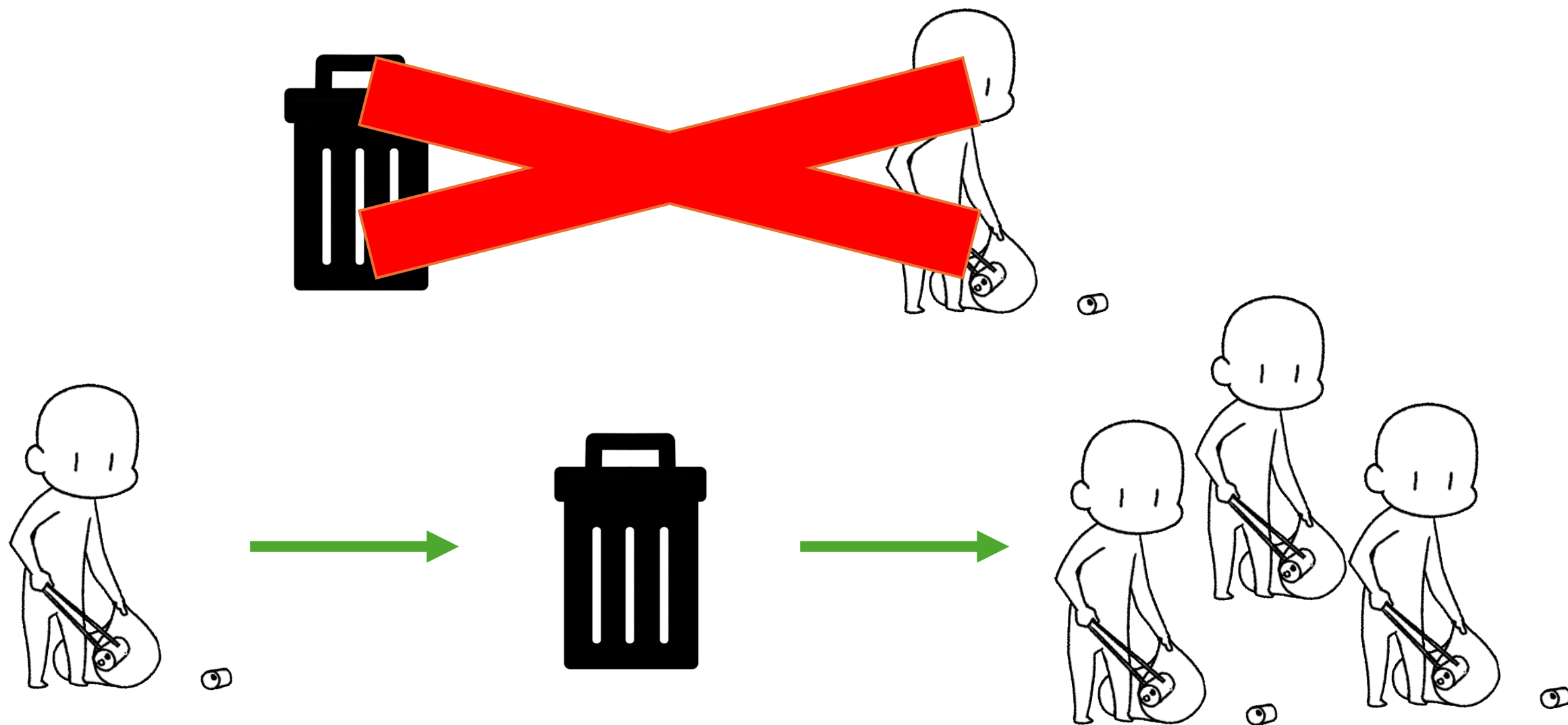
ゴミ拾い箱の設置提案を九州の各自治体にメールで提案

➤ 未到達の理由

1. 問い合わせした市町村や公共施設から返信が来なかった
2. すでに活動をしている
3. 提案先が知名度がない場所、観光スポットではない場所だった



ゴミ拾い箱設置



佐賀県 唐津市

回収量

年間で1,400袋、3.2トンの実績

導入・運用にかかる費用

拾い箱そのものの製造費に50万円

修繕として年間5～10万円

資金源

「国の海岸漂着物防止対策の補助金」

「企業さまからの協賛・ご寄付」

※市費は発生していません。

回収・設置・運用主体

唐津市環境課

